

処方解析演習

[講義・演習] 第6学年 前期 選択 [授業方法：反転授業を含む] 1単位

《担当者名》教授 / 小林 道也
教授 / 井関 健 教授 / 笠師久美子 講師 / 早坂 敬明

【概要】

この科目は、単なる講義・演習にとどまらず、各学生が課題について調査し、資料を作成し、学生自らが授業を行う（いわゆる反転授業）。従って、単に講義を聴講することだけを目的とせず、自ら課題をこなし、また他の学生による説明に対して積極的に質問する学生が履修することを期待する。

講義では、多くの模擬症例を履修学生にそれぞれ配布し、当該患者に対する適正な薬物療法の実施（病態の理解、診断に必要な検査値等、最適な薬剤の選定、副作用モニタリングのポイント等）について、診断・治療ガイドラインやインタビューフォーム・審査報告書等を駆使して調査し、発表（反転授業）のための資料を作成する。また、他の学生の発表に対して適宜質問を行い、模擬症例検討会を体感する。

従って、これまで学んできた薬理学、病態薬物治療学、生物薬剤学、製剤学、薬物動態学、医薬品情報学ならびに実務実習等によって学んだ知識・技能を十分に利活用することが必要となる。

【学修目標】

代表的な8疾患を中心として、数多くの疾患の病態・検査値異常等について説明できる。

上記の疾患に対する代表的な治療法・治療薬を説明できる。

同種同効薬の比較のために、適切な医薬品情報を収集し、評価・加工することができる。（技能）

代表的な治療薬を使用している患者における、副作用モニタリング内容について説明できる。

腎障害等の合併症を有する患者に対する、適切な薬剤の選定や投与量の設定を実践できる。（技能）

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1-2	ガイダンス 処方解析の実際（1）	疾患の診断基準や治療法について、ガイドラインを用いて調査することができる。（知識・技能） 添付文書やインタビューフォームを用いて、治療薬の薬物動態学的特性について説明できる。（知識・技能） 患者の状態に合わせて適切な剤形を選択することができる。（知識・技能）	小林道也
3-4	処方解析の実際（2）	審査報告書を用いて、新薬の有効性・安全性情報や薬物動態情報を抽出することができる。（知識・技能） 医薬品情報を用いて、同種同効薬の薬学的比較をすることができる。（知識・技能） 患者の状態に合わせて、適切な投与量設定ができる。（知識・技能） 得られた情報を用いて、他の医療従事者に説明するための資料を作ることができる。（知識・技能）	小林道也
5-15	処方解析の実践（反転授業）	1-4回までの授業内容を基本として、各学生に配布された課題について調査・情報収集を行い、発表用の資料を作成することができる。（技能） 作成した資料を用いて、発表を行うことができる。（技能） 発表に対して、疑問点をまとめて質問することができる。（技能）	小林道也 井関 健 笠師久美子 早坂敬明

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

個人課題（60%）、各講義終了後に提出する質問票（40%）

【教科書】

随時プリントを配布する。

【参考書】

治療薬マニュアル2021（医学書院）等の医薬品情報集
今日の治療指針2021（医学書院）

【学修の準備】

- ・PMDAやMindsのホームページより医薬品情報や疾患ガイドライン情報を入手できるようにしておくこと。
- ・与えられた課題について、十分な調査を行い、資料を作成して発表に備える。（240分）
- ・発表後に提出される質問票に対する回答を作成する。（120分）

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

- E1 薬の作用と体の変化
- E2 薬理・病態・薬物治療
- E3 薬物治療に役立つ情報
- E4 薬の生体内運命
- E5 製剤化のサイエンス
- F 薬学臨床

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域のおよび国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

【実務経験】

小林道也（薬剤師）、笠師久美子（薬剤師）、井関 健（薬剤師）、早坂敬明（薬剤師）

【実務経験を活かした教育内容】

学生自らが症例検討内容を発表し、担当教員がそれに対して実務経験を踏まえた質問等を行うことによって学修効果を向上させることが期待できる。